

INTERVIEW WITH YOU

あなたにインタビュー

BrightEyes

瞳を輝かせて

輝

心を演じて伝えたい

三好演劇塾公演「はるかなる銀色の水」出演

深谷 智恵子さん(明知上・写真右)
加藤 美智子さん(筋生)



▶▶▶プロフィール

ふかや・ちえこ 昭和36年生まれ。多くの犠牲が伴う用水計画に反対する稲元松役を演じる。今回二人は、舞台セットや衣装の準備にも参加した。

かとう・みちこ 昭和39年生まれ。水不足の苦しみから、用水計画を強く望む稲元菊役を演じる。

世 紀の大事業「愛知用水事業」を題材にした三好演劇塾の創作ミュージカル「はるかなる銀色の水」。大干ばつに苦しむ三好を舞台に、夢の用水開通への人々の苦勞を描いたこの物語が11月2日、サンアートで公演されました。今回は素晴らしい演技と歌声で、会場に訪れた多くの人を魅了した出演者の深谷智恵子さんと加藤美智子さんを紹介します。



舞台上で熱演する2人

んは「本番前1カ月は舞台のことで頭がいっぱい。常に歌を口ずさんでいました。終わったときは、感動と充実感が涙が止まりませんでした」と話します。

三好演劇塾の公演は、3月2日の旗揚げ公演「合唱劇カネット」に続き2回目。練習は4月11日に始まり、8月までは毎週金曜日に、9月からは土曜日や日曜日に加え、けいこを重ねてきました。

「6月のオーディションで配役が決まり、大きな役をもらって良い緊張感が沸いてきました」と加藤さん。おばあさんの役になった深谷さんは「初めは、腰の曲げ方など形ばかりにとらわれて演技していましたが」と振り返ります。やがて二人は練習が進むうちに、演じるべき人物像がはっきりと見えてくるようになり、悲しみや喜びの感情を自然に表現できるようになっていきました。本番直前のけいこでは、感情が高ぶりすぎて涙が出てきってしまうほどでした。

もともと芝居を観るのが好きで、自分でも参加してみたいと三好演劇塾に参加した加藤さん。深谷さんは、誘われて漠然とやってみようと思ったのが参加のきっかけです。そして「カネット」には二人ともコーラスで参加。その時、演劇の楽しさを実感し、今回大きな役を演じて、さらにその気持ちは高まりました。

「また同じメンバーで、舞台ができたらいなと思います。そして、もしこの公演を見て演劇をやってみたいと思った人がいたら、ぜひ一緒にやりましょう」と二人は力強く話します。

一年を振り返って



長友 英心くん
(三好丘小学校2年生・三好丘)

今年思い出に残ったことは、土岐市のおばあちゃんの家へ5回くらい行ったことです。おばあちゃんとたくさん話をしたり、ビーズ作りを教えてもらったりして楽しく過ごしました。また学校の総合学習の発表で、自分の作ったおもちゃをたくさんの人に見てもらえたことがうれしかったです。



富岡 基洋さん
(上ヶ池)

3歳の娘が、七五三参りの着物を気に入ってなかなか脱がなかったこと、5歳の娘が自分で本を読むようになったことなど、子どもの新たな一面や成長を見ることができました。また家族で初めてディスプレイランドへ行き、2人ともパレードを見てとても喜んでくれたことがうれしかったです。



原田さおりちゃん(左)
しおりちゃん
(中部小学校1年・三好上)

4月から小学校に入学しました。初めて姉妹別々のクラスになって、ちょっと不安でしたが、新しい友達がたくさんできたので良かったです。学校では、友達と広い中庭やプールでたくさん遊びました。勉強も始まって、難しいけど、国語と図工は好きになり、学校へ行くのがとても楽しいです。

次回1月1日号のテーマは「今年の目標」
広報情報課が皆さんのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしています。(12月8日(月)締め切り)

みよしの文芸

俳句

知らぬ間に来て亦帰る燕かな 酒井 登
秋の水無口な父でありしかな 鬼頭 美以子
秋水に鉢研ぐ吾れも農の民 八木 泰男
伊藤 かつみ
秋遍路白衣の朱印夕茜

短歌

小熊手に掻き出だされし雨蛙きよ 加藤 雪江
とんと居座る杉苔の上 又野 澄江
芋掘りに園児一輪野辺の花「おばさんあげる」とやわき手にのせ 小野田 のり子
和らかな風が運んだ秋の陽は猫の子側に寄りてくること

狂俳

金木犀 近づく我が家匂い満つ 林 星童
器用貧乏 豊富な技で瘦せている 加藤 満弥
気達沙汰 酒で人生狂わせる 久野 夢楽